

項目	自己評価	中・長期経営目標	短期経営目標	主な取組内容	取組内容の評価指標	達成状況	改善方策	学校関係者評価書	学校関係者評価	
教育課程・学習指導	B	基礎学力と伝え合う力を身につけ、生活に活かす子どもの育成	心の教育の推進 基礎学力の定着 向上 思考力・表現力・人間関係力の向上	学力向上のための組織的な校内研修体制づくり	「伝え合い、学び合い」の授業研究(理科・道徳)	○授業研究の実施状況	計画どおり実施できた。 6/22 5年理科 10/5 3年道徳 11/14 6年理科 11/15 1・2年生活科 11/28 4年理科 課題を次の授業研究につなぐ研究推進体制が十分ではなかった	・理科の授業研究に一本化し、一学期に2～3本の授業が組めるようにする。 ・事前研より事後研に重点を置き授業公開の回数を増やすことで授業の質を向上させる。 ・問題解決型の授業で、導入段階で実生活に即して自ら課題設定ができるような授業のしかけを工夫して取り組む。 ・言語活動を充実させるような授業形態の工夫を研究、実践する。	授業研究の実施状況では、分かる授業の工夫、ノート名人の表彰などによるノート指導の充実がなされ、設定された目標が達成されている。又、読み聞かせなどの定着により読書活動も充実している。バーコードによる管理が出来れば更に良い。	A
				子どもにわかる授業づくり(授業づくりスタンダードの活用など)	自分の考えを言葉で伝えるための発達段階に応じた指導の徹底。学習の質と量が見えるノートづくりとノート評価	○児童の評価「授業がわかる」 「発言している」A評価10%増 ○教員の評価「授業のくふう」A評価増	・児童「授業がわかる」 A評価49.4(-0.6ポイント) ・児童「発言している」 A評価44.9(+2.3ポイント) ・教員「授業のくふう」 A評価30.8(+2ポイント) ・各学期ごとにノート名人表彰、名人ノートを掲示。通信でもとりあげた。			
				学校全体で予習・復習(宿題)の質と量の高める取組	授業と関連したノート学習のすすめ 家庭読書のすすめ	○通知表の家庭学習ががんばろうの減 ○読書目標冊数の達成	・「家庭学習できているかな」カードの定期実施等により、高学年の30分以下が減少。 ・家庭学習ががんばろう16人で変化なし ・親子読書6月・10月実施(2月実施予定)10月実施率94.5% ・読書目標冊数達成率上級生で改善 4年71%→86% 5年10%→75%			
生徒指導	B	豊かな人間関係づくり	相手の立場に立って考え、行動できる子どもの育成	「良いこと見つけの木」の全校実施 あいさつ標語づくり、より良い仲間づくりのためのポイントとなる言葉指導 児童理解に関する情報意見交換会の定例化(毎月第1水曜) 「思いやり」の心を育てる道徳授業や人権学習、福祉活動の実践	○道徳アンケートの結果の向上 ○児童の学校評価アンケート「学校・学級が楽しい」肯定評価の増 ○児童の出席状況	・「道徳の時間が好き」ためになる「きまりを守っている」A評価増。 ・自己肯定感は昨年度と同様で変化がない。 ・「将来のためにがんばりたい」A評価20増 ・「学校が楽しい」3減「学級が楽しい」1.3増 ・二学期末で欠席10日以上は0である。 ・Q-Uアンケート【友達関係】全学級で改善が見られた。全学年とも平均値よりも高い状況にある。	・子どもたちの「授業がわかりたい」に応じて授業改善を進めるなかで、学級の支持的風土をつくりあげ、学級の人間関係の充実が学校全体へ広がっていくよう取り組む。 ・学校行事で育てる子どもの力を明確にし、行事の精選、充実に努め、子どもの生活意欲の向上につなげる。	道徳アンケートの結果、取組内容に向上が見られる。来年度への改善方策も的確に出きている。次年度も心を育てる教育のさらなる充実を目指して欲しい。	A	
				信頼される開かれた学校づくり	保護者や地域とのつながりを確かなものにする 学校教育への関心を高め、健全育成への支持的風土をつくる	定期的な情報発信の継続(学級だより・学校だより・学校だより地域版) 学校サポーターの活用と理科学習における工科大との連携 児童の地域学習(各学年)の実施 児童・保護者・教員がともに研修する場の設定 保護者と連携した読書力の向上(家庭読書・親子読書)				○定期的な情報発信の状況 ○工科大との連携状況 ○保護者の学校行事等への参加率の向上 ○親子読書の実施状況
保護者地域との連携	A	自らの命を自ら守ることのできる子どもの育成	安全に関する知識をもとに常に危機管理意識を保持し、発達段階に応じた危険回避能力を身につける	工科大と連携した避難訓練の実施 出前講座や他機関と連携した防犯教室、情報危機管理意識の向上のための学習会の実施 耐震工事の導入を機会に南海地震に備える学習と体制整備	○計画的な学習と訓練の実施状況 ○南海地震に備える学習と体制、施設整備等の状況	・地震火災の避難訓練、防犯教室、交通安全教室など計画的に実施できた。 ・南海地震に備え、想定外への心構えとより安全な場所への避難指導を取り入れた。 ・保育園と合同の引き取り訓練を実施した。 ・地域の自主防災組織や工科大との連携は未実施。 ・訓練のふりかえりカードで意識の向上に取り組んだ。	・効果的な情報発信をさらに工夫して取り組む。 ・理科教育の推進にあたり、工科大学との連携の新たなステージを作り出していく。 ・家庭読書をはじめ、学力向上に向けて保護者とのさらなる連携を強めるような取り組みをPTAとともに検討する。 ・参観日、講演、懇談会の実施時期や内容の改善に取り組む。	定期的な情報発信や工科大、PTA、地域の人との連携も強まっている。特に今年の行事である(ふれ合い片地)は大変な参加率であった。地域や保護者との連携が確実に進んでいる。	A	
				自らの命を自ら守ることのできる子どもの育成	安全に関する知識をもとに常に危機管理意識を保持し、発達段階に応じた危険回避能力を身につける	工科大と連携した避難訓練の実施 出前講座や他機関と連携した防犯教室、情報危機管理意識の向上のための学習会の実施 耐震工事の導入を機会に南海地震に備える学習と体制整備				○計画的な学習と訓練の実施状況 ○南海地震に備える学習と体制、施設整備等の状況
安全教育	B	教育課題の解決のための教員の指導力向上と学び合う学校づくり	教職に対する強い情熱と教育の専門家としての確かな力量、総合的な人間力を磨き合う協働体制の確立	理科教育に関する理論研修および実践研修、授業研究の計画的な実施 教材研究および授業研究を通して、道徳の時間の授業実践力を高める 校内実践交流会や研修報告会等で、共に学び合う	○校内研修計画および実施状況 ○研修後の教員のふりかえりの内容 ○Q-Uアンケート学級の意欲得点の状況	・研修計画に基づき理科教育の理論研修および実践研修、道徳、特別支援研修を実施した。 ・夏季休業中の各種研修会、四国大会、県大会に参加し、校内報告会を行い、研修内容について教職員で共有するとともに自校に取り入れる内容について検討した。 ・Q-Uアンケート【学級意欲得点】の変化2年33.6→36.0 3年27.7→28.3 4年30.7→30.4 5年31.5→30.2 6年25.2→25.8	・理科教育推進拠点校として高知大学のCST理科教員養成)と連携して、授業実践に関する研修を深めていく。 ・新学習指導要領に示された内容を熟知し、日々の授業実践に実現していくための具体的な指導法に関する研修に努める。 ・先進校視察と全国レベルの授業に触れる機会を持つ。	理科教育推進拠点校として、県内、外の各大学校との研修は良く出来ていて評価できる。その事がQ-Uアンケートの向上につながっている。	A	
				自らの命を自ら守ることのできる子どもの育成	安全に関する知識をもとに常に危機管理意識を保持し、発達段階に応じた危険回避能力を身につける	工科大と連携した避難訓練の実施 出前講座や他機関と連携した防犯教室、情報危機管理意識の向上のための学習会の実施 耐震工事の導入を機会に南海地震に備える学習と体制整備				○計画的な学習と訓練の実施状況 ○南海地震に備える学習と体制、施設整備等の状況
研修	B	教育課題の解決のための教員の指導力向上と学び合う学校づくり	教職に対する強い情熱と教育の専門家としての確かな力量、総合的な人間力を磨き合う協働体制の確立	理科教育に関する理論研修および実践研修、授業研究の計画的な実施 教材研究および授業研究を通して、道徳の時間の授業実践力を高める 校内実践交流会や研修報告会等で、共に学び合う	○校内研修計画および実施状況 ○研修後の教員のふりかえりの内容 ○Q-Uアンケート学級の意欲得点の状況	・研修計画に基づき理科教育の理論研修および実践研修、道徳、特別支援研修を実施した。 ・夏季休業中の各種研修会、四国大会、県大会に参加し、校内報告会を行い、研修内容について教職員で共有するとともに自校に取り入れる内容について検討した。 ・Q-Uアンケート【学級意欲得点】の変化2年33.6→36.0 3年27.7→28.3 4年30.7→30.4 5年31.5→30.2 6年25.2→25.8	・理科教育推進拠点校として高知大学のCST理科教員養成)と連携して、授業実践に関する研修を深めていく。 ・新学習指導要領に示された内容を熟知し、日々の授業実践に実現していくための具体的な指導法に関する研修に努める。 ・先進校視察と全国レベルの授業に触れる機会を持つ。	理科教育推進拠点校として、県内、外の各大学校との研修は良く出来ていて評価できる。その事がQ-Uアンケートの向上につながっている。	A	